

令和5年度（2023年度）第1回ニセコ町総合教育会議 議事録

日 時	令和6年（2024年）2月7日（水） 午後2時15分開会～午後4時00分閉会
場 所	ニセコ町役場 多目的ホール
出席者	片山健也町長、山本契太副町長、 片岡辰三教育長、下田伸一教育長職務代理者、越湖明美委員、 巻礼子委員、千葉つむぎ委員 淵野学校教育課長兼町民学習課長、齊藤こども未来課長兼幼児 センター長、三橋学校給食センター長、寺嶋有島記念館長、 島田総務係長
会議概要	以下の通り

1 開会、2 町長挨拶

町長：教育委員のみなさまには、教育行政において重要な役割を担っていただいておりますこと、感謝申し上げます。本会議の中でみなさまの率直なご意見を賜り、首長部局でできることや、支援体制について検討していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

片山町長が議長として議事を進行。

(1) 教育委員会と町長の関係について（町長）

町長：まずは、教育委員制度の基本的な考え方について再確認したいと思います。私は現在「提言・実践首長会」の共同代表として運営をしておりますが、その中で教育部会を設置しております。教育委員会という制度はそもそも、戦時中に市町村長が軍事に教育を利用してきたという反省から、教育を首長の恣意的な判断から独立させようという考えの下で設立されました。したがって、教育分野に首長は介入できないことになっています。部会の中では、それが今の社会において本当に良いことなのか、首長が教育を仕切るべきだという声もありました。そういった声を受けて創設されたのが、この総合教育会議の制度です。私はやはり教育に首長が首をつっこむというのはご法度であると思いますが、年に数回、首長の思いを教育委員のみなさまに伝える場を設け、その思いを元に教育委員会で独自の意思決定を行っていただくというのが総合教育会議の意義であります。教育委員会は、みなさまが住民の代表として住民意向を反映し、独立した組織により継続性、普遍性を担保するというのがそもそもの存在意義であり、教育における最高意思決定機関となっております。教育委員のみなさまの発議によって、教育行政が動いておりますので、よろしくお願いいたします。

(2) 教育委員会でのこども未来課の設置の理由

町長：「こども未来課」を教育委員会に設置いたしましたのは、行政の普遍性や継続性が保たれる必要があるからです。首長は選挙によって選ばれるため、首長が交代すると、これまでの首長の施策が全否定されてしまい、行政が動かなくなってしまう恐れがあります。こどもにかかわる予算が将来の首長の方針によって削られてしまっはいけないと考えておりますので、あえて教育委員会にこども未来課を設置し、支援が継続されるように、という思いを込めております。

(3) 教育全般についての意見交換（町長提案事項）

- ①教育費及び子育て支援対策について
- ②ニセコ高校の今後について（総合学科、全日制、寮の整備）
- ③H I S との連携及び同校の町教委学校施設の活用について
- ④学校施設の有効活用について（放課後・休日等）
- ⑤公営塾の拡充及び私塾の支援について
- ⑥スポーツの振興、体育協会等の支援について

町長：教育委員のみなさまが日頃感じていることや、教育委員会、委員としてやりたいこと、町として支援が必要な部分だったりといったご意見を頂戴して、改革していければと思っております。忌憚のないご意見を賜りたいと思います。以前からお願いをしておりましたニセコ高校の改革については、現在私も驚くほど、改革が進んでおります。教育委員のみなさまがニセコ高校への思い入れを持って取り組んでいただいた成果が出ていると感じ、厚く感謝申し上げます。また、北海道インターナショナルスクール・ニセコ校（以下、H I S）から先日、教育委員をはじめ各学校のみなさまより多大な支援をいただいているとのお言葉がありました。今後も連携を強化していただきたいと思っております。また京都インターナショナルスクールについても設立に向けて進んでおります。こちらは英語だけでなく日本語教育もやっていくとのことで、ニセコや比羅夫エリアでもそのような教育への需要が高いようです。今後ともグローバル教育へのご支援を賜りたいと思います。また学校施設の活用についてはこれまでもお願いをしております。公営塾の拡充については、生涯学習分野でどこまでできるかというところではありますが、将来的には多様な公営塾が展開できればと考えております。現在複数ある私塾についても、支援を手厚くしても良いのではないかと考えております。多様な私塾によって町民が学ぶ場が増えればよいと思いますので、ぜひご配慮賜りたく思います。最後に、現在国では「こども未来戦略」を策定して異次元の子育て支援に取り組んでいるところであります。周辺の市町村では、給食費の無償化について取り組んでおり、ニセコ町でも第2子以降の費用を免除する方針となっております。義務教育は無償が基本であり、給食費を保護者が負担していること自体おかしなことだと思いますので、将来的には完全無償化の方向で進めていきたいと考えております。5年後、10年後も継続して無償化を実現するために、今後の財政状況の見通しや全国の動向を慎重に見ながら進めてまいります。

下田委員：急速に改革が進んでいるニセコ高校の寮の建設や、学校へのエアコン設置、教員住宅の環境整備など、現在の教育分野においてはお金のかかる課題が多いと感じています。こうした課題について、積極的に取り組んでいけたらと思います。

町長：ニセコ町は現在過疎地域に指定されており、過疎地域では返済に有利な過疎債を公共施設やインフラ整備に活用することができます。しかし、現在町の人口が増えている状況などから、過疎法が令和10年以降も延長された場合は、ニセコ町が過疎地域の指定から外れ、過疎債の活用ができなくなる見込みです。この過疎債が活用できるうちにさまざまな施設の整備を進めています。私が町長に就任した時は、ニセコ町の税収が5億円ほどでしたが、現在は10億円ほどに増加しています。税収が増えると国からの交付税が減らされますが、実際には75%の減額ですので、25%分は町で自由に使えるお金になるということです。寮の受け皿を増やせばその分人口が増えるので、その分交付税の額も増えますし、人口が増えれば、地元の経済効果も期待できます。できれば補助金を使って寮を建設したいが、ダメな場合は全額過疎債で建設する予定です。冷房設備についても、文科省からの補助金が活用できそうなことと、特別交付税の活用なども検討しております。来年度中に設置ができるよう進めております。職員住宅についても今年度調査を行い、新たな住宅整備について検討していく予定です。現状の財政状況はそれほど悪いわけではなく、固定資産税の収入も順調に伸びております。将来的には税収を15億程度まで増やしていきたいと思っております。

学校教育課長：教員住宅については調査を行っているところですが、住宅の老朽化に加えて教員の世帯数と住宅面積のミスマッチといった課題も見えてきておりますので、詳細をとりまとめ、全体方針を検討していく予定です。

越湖委員：ニセコ高校は、新しい校長が来てから大きく変わってきていると感じます。今後、地元の中学生在がニセコ高校に行きたいと思うようになってくれるのではないかと思います。高校の授業を見学しましたが、以前よりも雰囲気は良くなっていました。今後に期待したいという思いです。また、現在学校に通うことができている不登校の児童について、児童の保護者も無理に学校に行かせない、というスタンスの方が多く実態があるようです。先ほど公営塾のお話がありましたが、公営塾というよりは、児童館のような、子どもたちがいつでも気軽に来られるような居場所的な空間が学校の近くに必要なのではないかと思いました。日頃子どもたちとかかわる中で、行き場所がなかったり、居場所を求めたりといった声も聞かれます。

町長：ニセコ高校は、先生も生徒も明るくなったと感じています。先日、5名高校生が町長室に来て、素晴らしい提案をしていただきました。町としても支援をしていきたいと考えています。不登校の問題は悩ましいですが、課題解決の手立てはあるでしょうか。

教育長：町内の不登校の背景として、家庭の方針で学校に無理に行かせないという保護者が多いということがあります。学校や人間関係など不登校の原因

がはっきりしているものには対応ができるが、原因がはっきりしない子については、こちらから働きかけても、対応が難しくなっています。

町長：老若男女どなたでも自由にいられる場所づくりが必要だと思います。新団地の集会所を活用するとか、高校寮に地域拠点のコンセプトを入れることなどできると良いとは思いますが、何か良い手立てがないか検討したいと思います。

巻委員：ニセコ町は毎年教育費に多くの予算をかけていただいていると感じています。今の教育は非常にお金がかかります。子どもたちに一人一台タブレット端末が与えられ、決して乱暴に扱っているわけではなくても機器の故障が発生して修理代がかかったりと、見えないところで随分とお金がかかっていると思います。引き続き支援をお願いします。また、私も不登校の課題は気になっています。多様性とはいうものの、町として学校教育をどうアピールしていくかが大事になると思います。ニセコスタイルの取り組みの中で、学校とH I Sとの連携が少ないように感じます。子どもたちの行き来はあるが、もっと先生同士の交流があっても良いのではないのでしょうか。ニセコ町ならではの教育スタイルを確立して、子どもたちが家だけでなく社会に出てきてほしいと思います。

町長：転入教職員の歓迎会の時にH I Sの先生方を招待するなど、もっと先生同士の接点を増やせるとよいと思います。

千葉委員：子どもの親目線の意見として、町のスキーフェスティバルが今年中止になってしまったのは非常に残念です。町のスキー教室も、今年は回数が少なくなり、子どもを行かせることができなかつたため残念でした。子どもたちも楽しみにしているので、スキー行事はなんとか復活させてほしいと思います。家庭でも子どもを連れてスキー場に行きたいのですが、保護者のリフト券が負担となっています。現状の保護者の助成は8時間で4千円ですが、もう少し短い時間で安いチケットを希望制で良いので助成していただくと助かります。また、子どもを単発で預けたいときに、ファミサポの制度もありますが、同学年のお友達がいる学童に預けることができるとうれしいです。現状は単発での学童利用はできず、逆に学童に通っている子でも習い事のある日は通わなかったりしているので、もう少し柔軟に利用できるようなになれば、子どもたちの交流も深まってよいのではないかと思います。

こども未来課長：学童は登録した人のみを通える仕組みになっていて、現状は単発での利用はできず、利用料金も日割り計算ではなく月額としています。定員は80名ですが、定員を超える応募があるほか、職員の確保も厳しい状況となっています。

町長：こども館の建設当時は、担当課で利用者のシミュレーションをして50人以内で見込んでいたところ、余裕をもって80名規模で建設したという経緯がありますが、現在は80名でも足りない状態となってしまいました。

学校教育課長：スキーフェスティバルについては、送迎バスの手配ができず、中止といたしました。3月中に、子どもたちがスキーを楽しめる代替行事を

できるよう調整をしているところです。

千葉委員：他の保護者の中には、スキー場に外国人が増え、危ないのでイベントが中止となったと思っている人もいました。

学校教育課長：過去に小学校のスキー学習の中で、海外からのスキーヤーと児童が衝突して事故に遭ったという事案があり、賠償責任などのリスクも伴うため保険をかけるというような対応は取っていますが、そのようなことを理由にスキーイベントを町として中止にすることはありません。誤解のないよう説明をしていきたいと思います。

教育長：通常の学校のスキー授業もバスの手配が難しく、バスの時間に合わせてスケジュールを組むなど対応を取っています。今後はスキーだけでなく、バスを使う行事は全般的に影響が生じる恐れがあり、開催時期の見直しや、現地集合での開催、小中学校で開催を分けるなどの工夫が必要になると考えられます。

町長：年度当初に行事の日程を決めてバス会社と契約をすることはできないですか。

学校教育課長：町内のバス会社の運転手は、現在フルでスクールバスの運行に当たっている状況ですので、その中で連携が取れば不可能ではないかもしれません。

教育長：スキーフェスティバルでは一度に多数のバスを手配する必要があり、今までは町外の事業者にもお願いをしていましたが、その事業者が今年度倒産してしまったという経緯もありました。町内の事業者からは、年度当初の時点で冬場は厳しいという話があったので、早くに計画したとしても、バスの手配は難しくなりそうです。

学校教育課長：せっかくの伝統ある行事なので、開催を継続できるよう尽くしたいと思います。

越湖委員：高校の世界村のアイデアが良いと思いました。近年は小学校でも海外からの児童が増えており、今後も増えると思うので、多様な言語に対応できる場があると良いと思います。絵本ワールドのイベントでも子どもたちが多様な言語に触れる機会がありますが、そうした多様性が世界村につながっていくと良いのではないかと思います。

町長：教育委員の皆さんは先進地視察に行く予定はありますか。

学校教育課長：来年度、高校の英語村（世界村）のモデルとなっている京都市の日吉ヶ丘高等学校に視察に行く予定です。

町長：全国で誰でも集える居場所づくりに取り組んでいる自治体の事例がたくさんあるので、ぜひ見に行ってください。町内でも、中央倉庫群が居場所になると良いと思っています。町民センターも、当時はそういう思いでつくっています。7つの地区センターも現状は解放しておらず、活用できるようにしたいが、管理体制に課題があります。

副町長：最近の子どもたちは、外遊びはしますか。

巻委員：昔とは大きく変わってきていると感じます。外にいたとしても、ゲー

ムなどを持ち寄って遊んでいて、グラウンドでキャッチボールをして遊ぶ姿はほぼ見かけなくなりました。

越湖委員：放課後子ども教室の時間はちびっこ広場で遊ぶ様子もありますが、教室が終わると、町民センターで集まってゲームをしている姿を目にします。

千葉委員：子どもが外遊びに行きたがることもあるが、自宅から公園やお友達の家が遠いので保護者が送り迎えをしなければならないので大変です。数年前にちびっこ広場の再整備についてアンケートがあったと思いますが、どうなったのでしょうか。

学校教育課長：ちびっこ広場については水場を改修したいと計画していましたが、市街地の水の状況が良くないということで、現在はストップしているところです。

千葉委員：今の噴水は、雨が降ったあとに水がたまったところで子どもがあそんでいたりしていて、不衛生だし危険と感じます。

副町長：噴水はひとまず撤去する予定でいるのと、ちょっとした遊具も来年度整備する予定です。本来は、子どもたちが遊べる水場の整備を目指していましたが、市街地の水不足が課題となっていて、今は難しい状況となっています。早くて令和9年ごろには水不足が解消される見込みです。

町長：子どもたちの安全で言えば、町民センターの前に横断歩道の設置を警察に要望し続けているものの、警察では横断歩道の間隔を最低でも100m以上にすることや横断歩道自体の数を増やさない方針があり、設置ができない状態です。信号についても、ニセコ町は道内の都市部と比べて圧倒的に交通量が少ないので設置してもらうことができません。横断歩道の設置ができないのであれば、いつそのことすべてを歩行者優先道路にして車は徐行してもらうなど、別の方法を考えるしかないと思います。

こども未来課長：居場所づくりに関しては子ども議会でも話題に上がっていました。行きやすい場所にあると良いですが、良い場所がないことが課題になると思います。

町長：学校施設を活用することはできませんか。

学校教育課長：ニセコ小の体育館や近藤小を一部解放している実績はあるのですが、常時使っていない理科室や家庭科室といった空き教室を、もっと踏み込んだ形で活用していきたいと思います。例えば寿大学のような社会教育事業などを学校で実施して、子どもたちと高齢者が交流する機会を持てるとか、学校と利用者相互の関係性が生まれるような開放の仕組みがあると良いと考えています。

町長：校長に責任を負わせると負担が大きいので、集落支援員を活用するなど、学校の教員が責任を追わない仕組みが必要だと思います。せつかくある建物をうまく使いたいと思います。

教育長：教員の働き方改革の観点からも、集落支援員や地域おこし協力隊を活用して施設活用を進めていく必要があると思います。

越湖委員：放課後子ども教室を始めた当初はこども館の2階でやっていました

が、次第に手狭になって、現在では体育館や町民センターで場所を変えながら実施しています。専用の場所ではないので、部屋を片付ける必要があるので作りかけの共同制作の作品をそのまま置いておくことができなかつたり、施設内の別の団体からうるさいと注意されてしまつたりします。また、中には広い場所で走り回りたい子もいて、小ホールで開催する日はそれができないなど、子どもたちが窮屈に感じている場面も見られます。子どもたち各々がやりたいことをできるようにしてあげたいですが、そのためには、別の場所が欲しいといった感じがあります。

町長：高校の体育館を活用することはできないですか。

教育長：部活動の兼ね合いを整理すれば活用できると思います。高校の体育館は一般開放をしているが、コロナ禍だったこともあり、利用について浸透していないと感じます。今後は小中高の体育館の解放をもっと進めたいと思います。ただし、開放時の管理者をしっかりと定めることが必要になります。

越湖委員：子ども館で場所を専有して実施していた時は、物の置き場が決まっていたので、子どもたちも片づけの習慣がついていました。場所を借りての実施だと、みんなで何日間の時間をかけて制作中の作品を置いたままにできないことなどが不便なので、できれば専用の場所を決めて実施する方が良いです。

町長：来年度建設を始める新団地では、2棟の集合住宅のほかに子育て世代やの居場所として事務所を併設する予定です。事務所には社会福祉系の団体に入っていただくことを想定していたのですが、社会福祉協議会は町民センターの方が使いやすいということですので、放課後子ども教室をその集会所で実施するという可能性もあるかもしれません。

教育長：施設の有効活用ということを考えると、専有してしまうと有効活用されにくいという課題もあるので、活動のあり方について、よく考えていく必要があると思います。

学校給食センター長：給食費について、4月から第2子以降を無料にする予定です。小中学校では給食をよく食べてくれて、残食率はかなり低いですが、高校は残食率が高い傾向にあります。校長に理由を聞いてみると、世代的に太ることを気にして炭水化物を嫌がったり、少なめによそう子、その日は何も食べないという子もいるそうです。食べることに強制はできないため生徒の自主性に任せている状況です。ただ、人気メニューの日は残食がないときもあります。

有島記念館長：有島記念館の施設の老朽化が進んでいるため、改修の計画を立てていくことが今後の課題になっています。世の中全体の傾向として、文化・芸術分野に意識が向いていない傾向があると感じています。スポーツ分野の方がどうしても注目を浴びる機会が多く、部活動の地域移行や指導者の問題も、運動部ばかりが話題に上がる状況で、文化系のクラブは尻すぼみ状態となっています。有島記念館の絵画展は応募が増えている傾向にはありますが、全国的には減少しています。美術を学べる学校が減少しており、芸術に触れ

る機会がなくなっていくことに危機感を持っています。今後、文化活動をどう地域で支えるか考えたときに、有島記念館が果たすべき役割はもっとあるのではないかと考えています。先ほどの居場所の問題にもつながりますが、工作や俳句づくりなどテーマがあると、親子や高齢者で交流することもできるので、有島記念館で活動の場を提供できないかと思いました。

教育長：町内でも個人の方の絵画教室が子どもたちから人気だったという話がありましたが、今はないようなので、有島記念館でそういうことができると良いと思います。現在も記念館ではさまざまなコンサートや企画を開催していますが、実は子ども向けの行事は少ないことや、小中高等学校の利用が少ないので、学校とも連携して受け入れを進めていくことが必要と思います。小学校でも芸術鑑賞会を実施していますが、日ごろから有島記念館で文化・芸術に子どもたちが触れられると良いと思います。

有島記念館長：日本では化石の発掘が世界的に見てももっとも多いのですが、博物館の学芸員だけではなくて、大勢の一般の化石オタクや市民の方が日本中で化石調査発掘活動を支えています。最近は文化サークルも減少していますが、文化芸術に熱心な市民と一緒に活動していけたら良いと思っています。

町長：子どもたちにも有島記念館に入って藤倉氏の作品を見てほしいし、少なくとも町内の子どもで有島記念館に入ったことのないという子をなくしたいです。

有島記念館長：施設の中に子どもアトリエのような空間を作って、自由に貼り絵や工作なんかを楽しめるようにするなど、方法はいくらかもあると思います。

町長：中学生以下の子どもと65歳以上の町民は無料となっているし、年間パスポートも2回行けば元がとれるので、もっとPRした方が良いのではないのでしょうか。また今年は竹尾のペーパーショウを予定しており、身近で見ることができるのはものすごく貴重な機会だと思います。

下田委員：誰でもいつでも来られるような居場所がニセコ町内にあると良いと思いました。年末年始はどこの公共施設も閉まっていて子どもたちが遊ぶ場所がなく、綺羅乃湯に集まって遊んでいました。多様性の時代ではありますが、大事なことは孤立せず、居場所があって、色々な刺激を受けられるような環境を作ることではないかと感じています。

町長：本当は中央倉庫も一日中開放してきたいのですが、石倉のため暗くて冬場は寒いなど少し使いにくい状況となっています。

こども未来課：週末に中央倉庫でキッズパークを開催していますが、来年はもう少し回数を増やせるように予算をつけており、少しずつ拡充していきたいと考えています。

町長：役場の3階も開放したいのですが、セキュリティの問題で土日開放することができない状況です。多目的ホールの開放なども含めて検討したいと思います。

4 閉会

町長：本日は貴重なご意見ありがとうございました。今後とも委員のみなさまと議論を重ねながら取り組んでまいりたいと思います。よろしく願いいたします。